

## INTERVIEW

奈良県立医科大学 総合医療学講座 教授  
西尾健治先生



# メディカルサイエンスをもって 患者さんに寄り添う

聞き手：山田隆司 地域医療研究所長

## 何でも診ることで学んだこと

山田隆司(聞き手) 今日奈良県立医科大学病院に、西尾健治先生をお訪ねしました。

先生は自治医科大学5期生ですが、卒業してから今日に至るまでの経緯を紹介していただけますか。

西尾健治 卒業して県立奈良病院で初期研修を2年間、全科ローテーションしました。その後天川村の村立診療所、<sup>どろかわ</sup>洞川診療所に2年間行きました。医師は1人の診療所でした。その後、奈良県立医大の小児科に1年半ほどいまして、それから県立奈良病院、県立五條病院の小児科に行きました。最後にまた天川村の南日裏診療所という1人診療所に2年間赴任し、そこで義務が終わりました。

山田 卒業後5年目に奈良県立医大の小児科に入局

して、小児科を研修しながら診療所赴任をしたということですね。

西尾 はい。当時の奈良県立医大は自分たちの人事で動かせない自治医大卒業生が入局してくるのを好まなかったもので、卒後3年目で入局を認めてくれず、毎週1回山から下りてきて教授の診療に2年間付くことで、5年目に入局を認めてもらいました。義務年限が終わるやいなや、人事権の行使という意味もあり、福井県の敦賀の西の気山という田舎にある国立療養所福井病院に赴任しました。重度心身障害者が中心の施設で重心病棟150床、整形外科、内科、小児科併せて50床ほどの施設でした。

山田 そこは奈良県立医大の関連病院だったのですかね？

西尾 そうです。小児科医が2人でした。

山田 そこは小児科以外の診療科もあったのですか。

西尾 整形外科と内科です。院長は整形外科の先生でしたが、血友病のエイズ患者(HIV感染患者)の手術をされていたので、エイズ患者さんが全国から大勢受診していました。当時平成3年ですから、国立病院も含め多くの病院が、血友病の血液製剤からの感染によるエイズ患者の診療は断っていたような時です。ここの内科の先生もエイズは診ないというので、小児科外来が終わったあと私がエイズの方々の外来や入院を診ていました。このころのエイズ患者さんは自分自身に不安がある上に、世間からも白い目で見られ、家族にうつたらどうしようという不安をかかえておられました。彼らの悲痛なこころの叫びを聞きながら医療対応と社会的対応策を患者さんと一緒に模索したことは、総合診療を実践していく上でも良い経験をさせていただいたものと思っています。

山田 本当ですね。誰にでもできる経験ではないですね。

西尾 そう思います。そこではエイズ外来以外に、重度心身障害者を150人、小児科外来も当初10~20人だったのが50~60人になり、入院患者は十数人で結構忙しかったですね。

そこには長く入所されている小児麻痺の障害者の人も多く、「この子、先生のこと好きやねんて」などと言われ、寝たきりの小さな小児麻痺の子だったので、「ありがとう」と頭を撫でたりしていたのですが、後から看護師さんに聞いたところ、発声はできないですが、きちんときれいな言葉がつむげる子だったんですね。それを聞いてから、子ども扱いしてしまったなと思って、27歳のレディーだったのになと思って……可哀そうで、今思い出しても涙が出ます。言い方は悪いですが、そういうこともいい経験だったと思います。

山田 小児科医であって、よりジェネラルに対応していたわけですね。

それが先生の義務年限後の、思い出深い、印象的な2年なのですね。

## 小児科から救急、そして研究を経験して

山田 その2年が終わった後はどうされたのですか。

西尾 以前にいた天川村の総務部長さんたちが、福井まで何度も足を運んで来られ、村の診療所に入って欲しいという要請を受けていて、天川村の医師になる決心でいたのです。ところがその福井での2年が終わるころに、奈良県立医大の小児科の教授から連絡がありました。大学に平成2年に救急科が出来て小児科で講師の席をとったものの、内科や外傷患者も来るため小児科医にはしんどい。そこで自治医大だから大丈夫だろうと、私に講師として救急科に行ってもらいたいということでした。天川村に電話をしたら村長が「今は自治医大の先生が来てくれているので2年間くらい大丈夫です」というので、救急科

の講師を引き受けました。

そこで外傷のヘッドや内科系のヘッドとして働きました。つまり内科系の先生と当直の時には私は外科系として、外科系の先生と当直の時には私は内科系を担当する形で当直をしながら、ICUなどの集中治療を中心に5年ほどやりました(天川村の診療所に入る話は村長が代わったため立ち消えとなりました)。

それから救急科の教授も定年間近となり、そろそろ小児科に戻ったほうがいいと考えて小児科の教授に頼み、榛原町立病院(現在の宇陀市民病院)に小児科部長として大学から出してもらいました。

山田 それは小児科医として？